

浜松市における依存症対策事業 ～家族勉強会の展開と展望～

浜松市精神保健福祉センター

○長島麻莉 池田千穂 松尾詩子 志倉祥 河合龍紀 二宮貴至

浜松市における依存症対策事業 概要

◆平成21年度 当事者、家族の個別相談開始



当事者支援

◆平成23年度

アルコール・薬物再発予防プログラム（HAMARPP）

◆平成31年度

ギャンブル依存症者回復トレーニングプログラム（HAT-G）

◆令和2年度

お酒を卒業したい人のつどい

◆令和4年度

依存を抱える女性のためのつどい

家族支援

◆平成25年度

家族勉強会

- 家族相談の増加。
 - 家族に対する適切な助言や支援が必要。
- 依存問題への理解を深め、対応力を高める。

家族勉強会 概要

- 令和4年度までは個別相談利用者のみ参加可能
- 令和5年度から、市民を対象を拡大

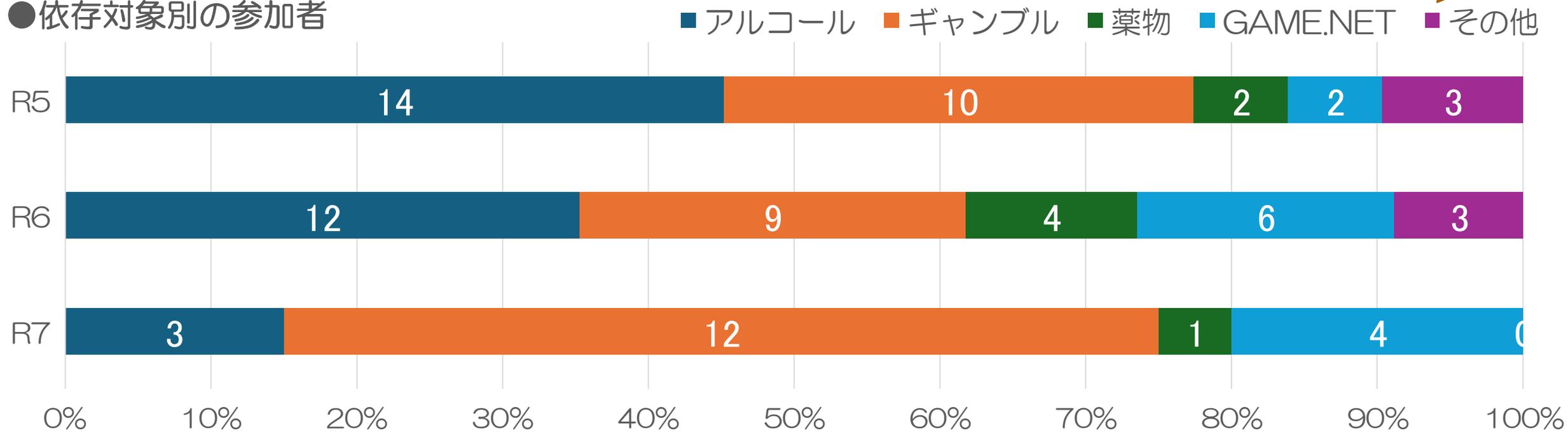
開催内容

- ◆開催頻度：年2回（前期・後期） 1クール全4回 各2時間
 - ◆参加定員：1クール20家族（家族の続柄、依存対象、診断の有無は問わない）
 - ◆内容
 - 第1回「依存症とは」…基本的な依存症に対する知識（依存症の特徴など）
 - 第2回「家族の接し方①」…イネイブリング、アイメッセージの練習
 - 第3回「家族の接し方②」…治療や相談を勧める言葉やタイミング
 - 第4回「体験談」…本人や家族の体験談
- ➡ 前半は講義、後半は家族同士のわかちあいの時間

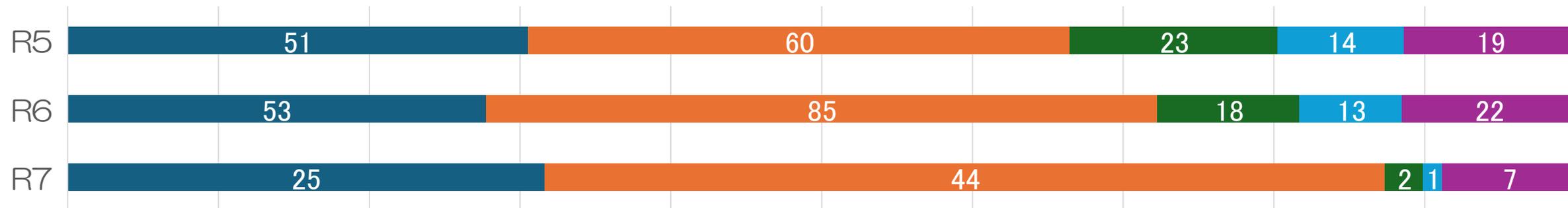
近年の参加者の傾向①

【その他】
・買い物/窃盗/性依存

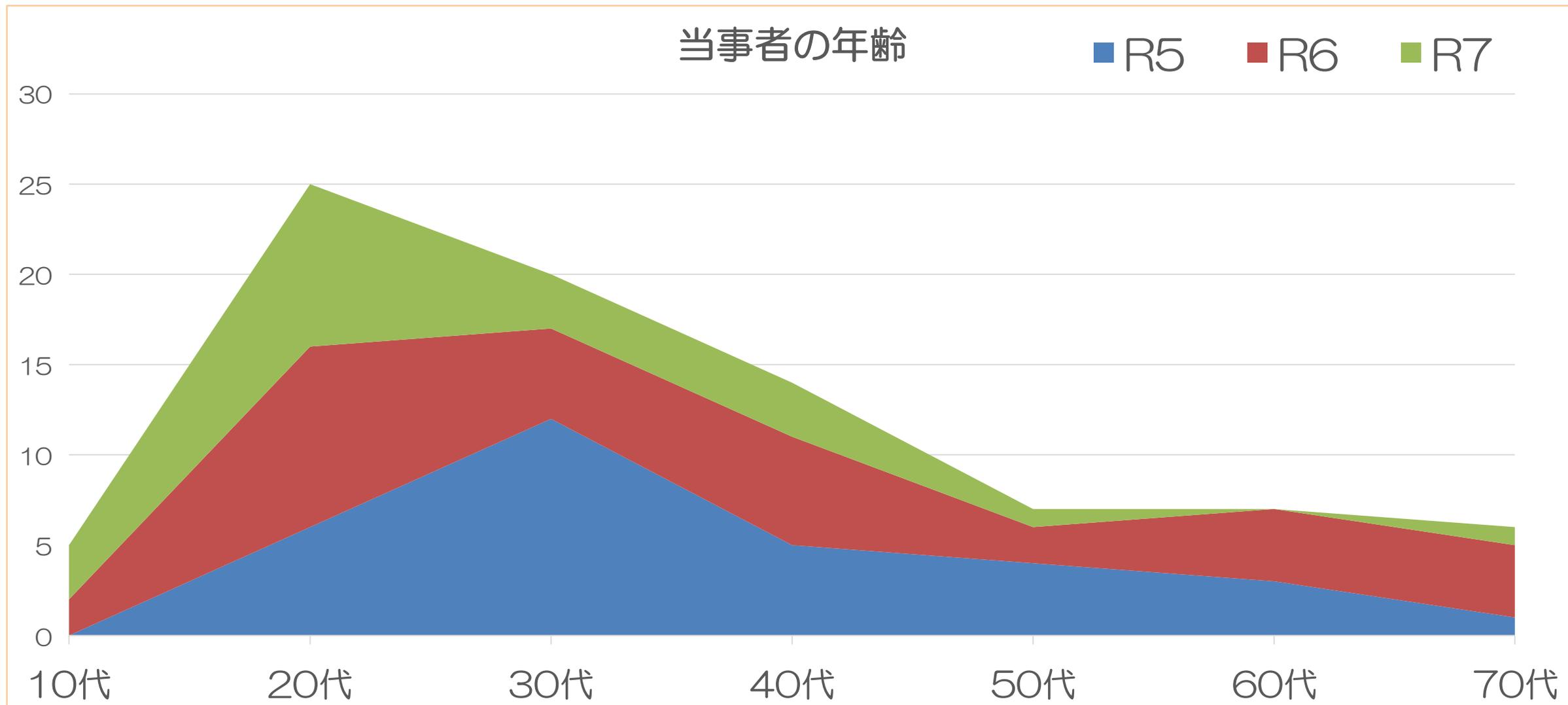
●依存対象別の参加者



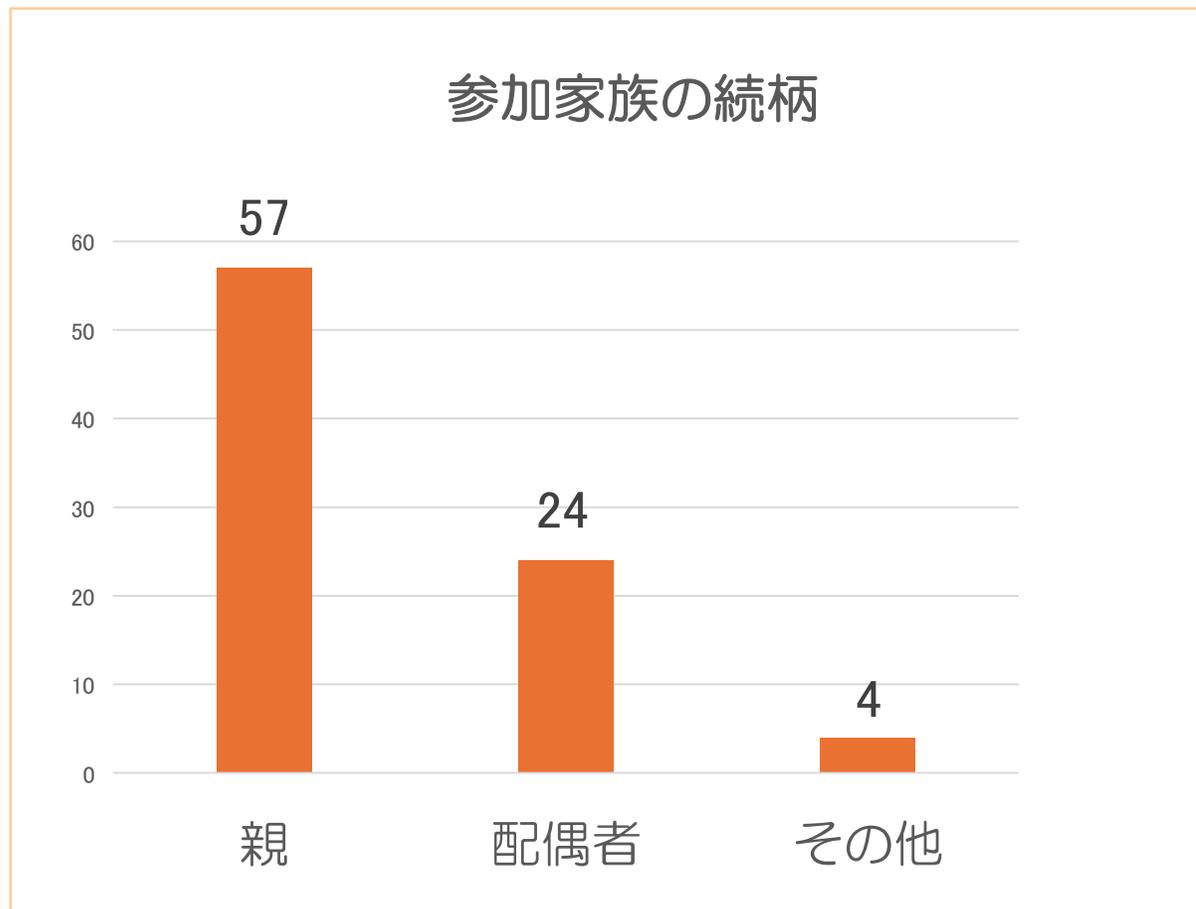
●精神C来所相談



近年の参加者の傾向②



近年の参加者の傾向③



◆令和5年度～令和7年度前期参加者
総数：85名

◆依存対象、続柄

①ギャンブルの子どもを抱えた親

…21名

②アルコールの配偶者…15名

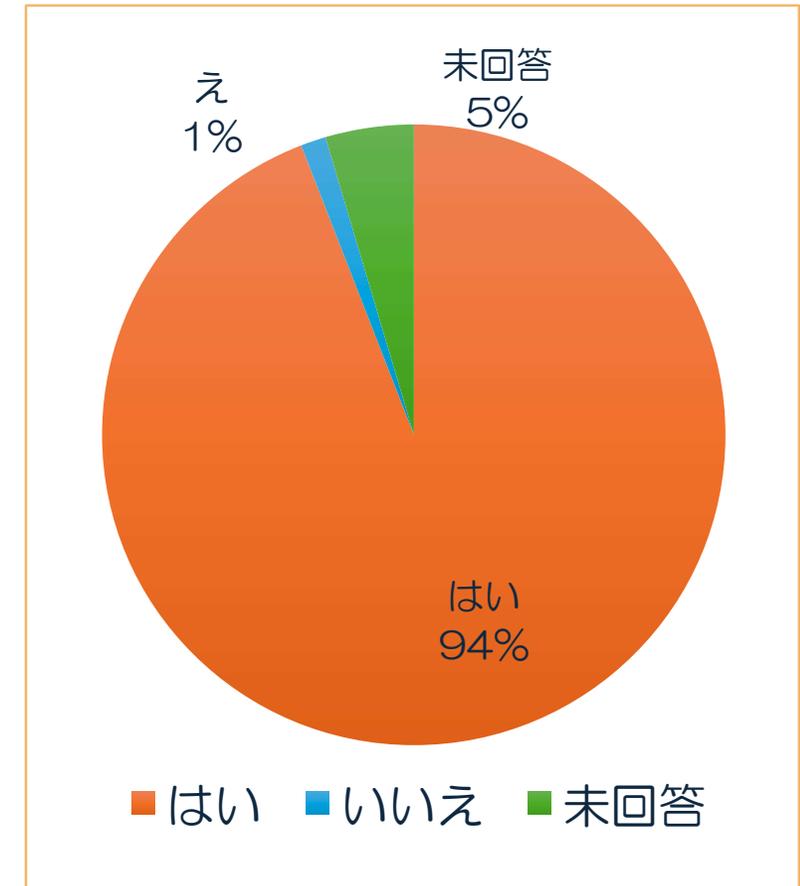
アンケート結果①

質問 「今回の勉強会は、今後の生活の役にたつと思いますか」

回答 「はい」 144件 / 「いいえ」 2件 / 「未回答」 7件

意見

- 向き合い方を再確認できた（第1回）
- 自分の気持ちの伝え方を変えるよう努力しようと思いました（第2回）
- 本人へ話をするタイミングが大切（第3回）
- 自助グループの情報を知っておくだけでも安心感がある（第4回）



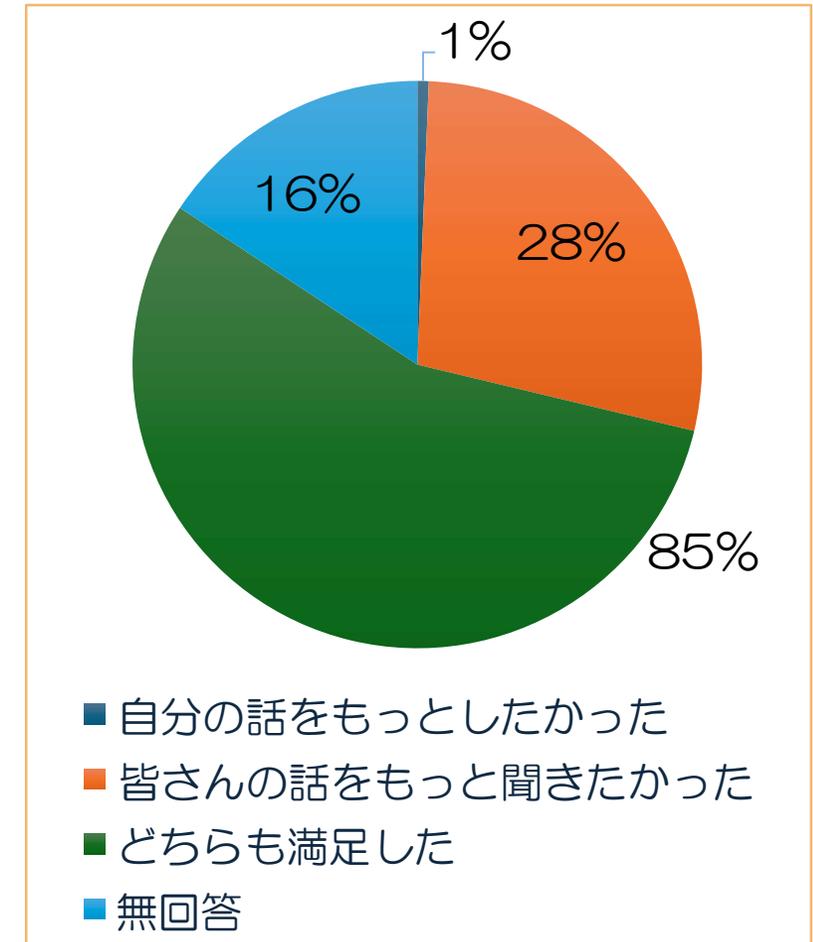
アンケート結果②

質問 「わかちあいの時間で、当てはまる所に一つチェックをお願いします」

回答 「自分の話をもっとしたかった」 1件
「皆さんの話をもっと聞きたかった」 43件
「どちらも満足した」 85件
「未回答」 24件

意見

- ・悩みを話したり、聞いたり、共感しあえてよかったです。
- ・同じような状態のご家族の話を知ることができて、すごく安心した。
- ・あまりグループで行うのが好きではないけど、話を聞けて良かった。



勉強会参加後の動向

◆勉強会参加後に何名が個別相談を利用したか

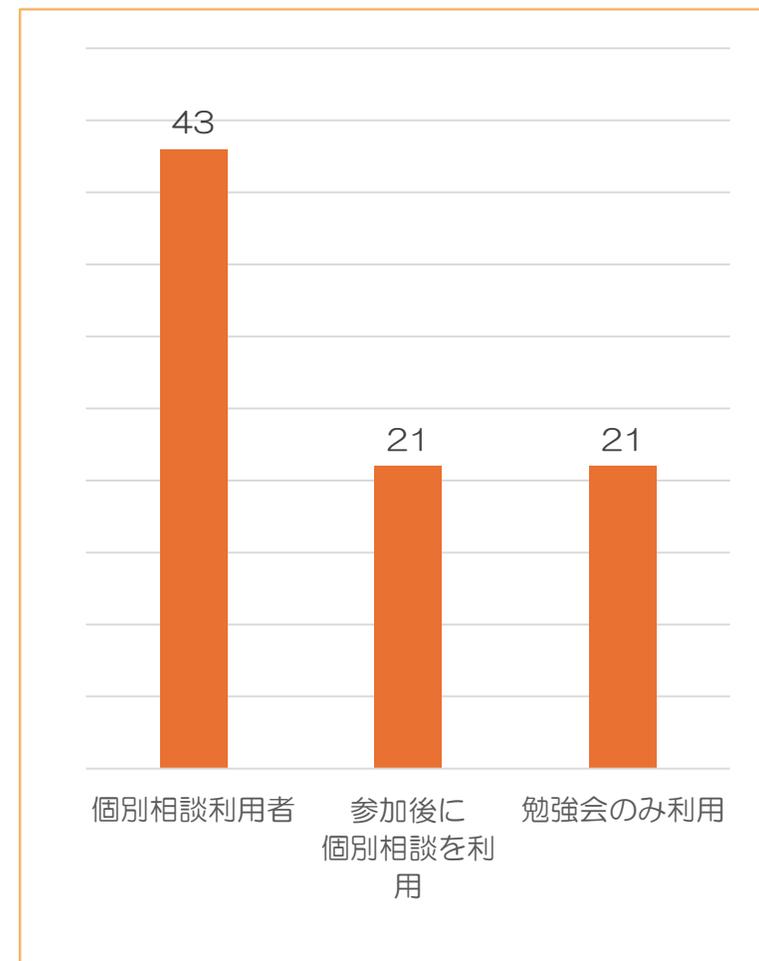
令和5年度～令和7年度前期までの参加者総数 85名

経過

「個別相談利用者（勉強会開始前から個別相談を利用）」43名

「参加後に個別相談を利用」21名

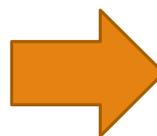
「勉強会のみ参加」21名



考察①

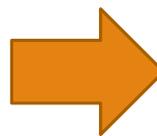
◆調査結果

- ゲームやネット依存の家族の増加
- 薬物依存の家族の繋がりにくさ
- 当事者の低年齢化・依存対象の拡大



勉強会の周知先の検討
(矯正施設や保護司、学校現場など)

- 個別相談に繋がる家族と、勉強会のみ
の参加の家族との二極化

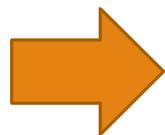


勉強会中に個別相談に繋がる取り組みの検討
再相談のきっかけとなるリーフレット作り

考察②

◆調査結果

- 講義内容が生活の役にたつ
- わかちあいの場の満足度は高い



- 家族が自分の気持ちと向き合い、当事者との関わりの気づきを得ることが重要。
- 孤独な家族が気持ちや意見の共有ができる大切な場。

本人の回復には、身近な家族の回復がとても重要。
当事者支援と家族支援を並行して行う。

ご清聴ありがとうございました。